

とちぶん会報

No.52

2018年7月1日

栃木県文芸家協会 発行人 小林 守城
事務局/栃木県下都賀郡壬生町中央町 16-18 三上博史 方
〒321-0226 TEL090-9318-2492

平成 30 年度定期総会開催・新役員が決定

5月19日(土)ホテル丸治において、平成30年度定期総会が開催されました。役員改選については、故松本富生会長の後任に小林守城副会長が選任されました。また、新たに副会長として事務局長の高杉治憲氏(小説)が就任し、福澤悦子氏(短歌)が新理事となりました。事務局については、高杉事務局長の後任に三上事務局次長が就任しました。さらに『朝明』の新たな編集委員が発表されました。

このほか、平成29年度事業報告及び決算、平成30年度事業方針・計画及び予算が承認されました。

総会終了後、恒例の懇親会が同ホテル内で開かれ、取材に来られた下野新聞社くらし文化部 宇賀神和彦記者にもご列席いただき盛会裏に終了いたしました。

<平成30~31年度役員(敬称略)>

- ▽会 長 小林 守城(詩)【新任】
- ▽副会長 福田 三男(小説) 押久保千鶴子(随筆) 高杉 治憲(小説)【新任】
- ▽理 事 橋本紀久子(小説) 宇賀神 忍(評論) 小島 延介(随筆) 舘野ひろ子(随筆)
綾部 健二(詩) 鈴木 芳子(短歌) 阿部 功(俳句) 三上 博史(川柳)
福澤 悦子(短歌)【新任】
- ▽事務局長 三上 博史(川柳)【新任】
- ▽会 計 綾部 健二(詩)
- ▽監 事 戸井 通夫(詩) 国井 和子(随筆)
- ▽顧 問 荒井 宗明(川柳) 野澤 俊雄(詩) 高田 太郎(詩) 高橋 昭行(詩)

<『朝明』編集委員(敬称略)>

- ◇ 担当顧問 小島 延介(随筆)
- ◇ 委員長 三上 博史(川柳)
- ◇ 委 員 橋本紀久子(小説) 国井 和子(随筆) 綾部 健二(詩) 鈴木 芳子(短歌)
福澤 悦子(短歌) 阿部 功(俳句)

※上記8名に、荒井顧問、野澤顧問、高田顧問、高橋顧問、小林会長、高杉副会長、福田副会長、押久保副会長の8名が加わり計16名の構成。

会長就任挨拶 小林 守城

5月19日、故・松本富生会長の後任としてその役割を担うことになりました。その器ではないとかねてから自覚はしておりますが、生前の会長からの打診もあり、引受けすることになりました。本県において、長年にわたる言語文化の創造・蓄積を果たしてきた先輩諸氏の文芸家協会の今日を引き継ぎ発展させていく使命を担うことになるわけで、当初から戸惑いと重圧を実感いたしました。精一杯やるしかならうと肚を決めました。

「出処は人に任せ、退くは自ら決すべし」という私に住み着いた処世の箴言がここでもささやきました。そうだ、まとめ役、調整役に徹していけばいいのではないかと思います

立ち枯れが心配な文芸界の現状ですが、やさしく寄り添い、真実の力ある言葉を求める、人々の文芸への期待は、不変のはずです。

現状を客観的に科学的に理解し、その解決の方向性を衆議の中から見いだしていくことが、今日の活字文化・デジタル文化・映像文化に総合化される時代の、平和と人権・日本の和の文化の道筋ではなからうかと思っています。

会員各自の主体的な文芸活動と組織的・社会的な課題認識を期待します。

第1回編集会議を開催・『朝明』第7号発刊へ

6月21日(木)開催の第1回編集会議において、原稿提出要領が決定しました。作品の提出期限は9月末日です。会員各位においては、別添要領に基づいて提出されるようお願いいたします。

夏季講演演会の開催が決定・講師は岡崎正隆先生

本年度の夏季講演会は、講師に岡崎正隆先生をお迎えして以下のとおり開催することとなりました。会員の積極的な参加をお願いいたします。

- 日 時 平成30年8月19日(日) 午後1時30分～3時
- 会 場 ホテル丸治[宇都宮市泉町1-22/TEL 028-621-2211]
- 講 師 岡崎正隆先生(元文藝春秋出版部長、日本大学芸術学部文芸学科講師、井上靖記念文化財団理事、日本ペンクラブ会員、南国忌(直木三十五)の会顧問)
- 演 題 「芥川賞・直木賞の秘話」
 - * 講師略歴/1945年宇都宮市生まれ、宇都宮高校から慶應義塾大学文学部仏文科卒業後、文藝春秋に入社。主に出版部に所属し500冊以上の本の出版に携わる。担当した単行本で7人の直木賞作家を輩出。趣味はマラソン。ギリシャのアテネからスパルタまでの246kmレースに13回出場、ホノルルマラソンにも毎年参加。
- 懇親会 講演会終了後、午後3時20分から同ホテルにて暑気払いを兼ねた懇親会を開催します。
 - ・会費5,000円(当日支払い)

※ 同封した出欠の返信ハガキを8月13日(月)までに事務局あて必ず郵送してください。

『創作への志』 会員通信 No.11 小説部門 橋本紀久子

文学への取り組み—文学と言う程大袈裟なものではないが、課題を頂いたので素直に述べてみます。創作の内主に川柳に時間をとられ、その苦闘ぶりをちょっと。川柳はひと月1回開催され、前もって課題が5題×2句宿題になります。最低でも15句から20句作ります。私がかまけるのは「見つけ」です。メモ帳を持ちながら歩き閃きを待つ。メモをヒントに古びたアンテナを駆使し、真っ直ぐに詠むか斜めに詠むか、そこが思案の為所となっています。

年会費納入について

遅くなりましたが、平成30年度会費納入を通知します。期限は8月末、今回同封した所定の郵便局振替用紙にて納入をお願いいたします。一部既に納入を済まされた会員もいるかと思いますが、悪しからずご容赦ください。なお、振替払込受領証は領収書となりますので大切に保管してください。

§ 新会員紹介 § ・随筆部門 小林 博[鹿沼市]

* ∞ * 事務局通信 * ∞ *

新事務局長として第1号の「とちぶん」をお届けします。よろしくご覧ください。今後とも皆さんに喜ばれる誌面づくりに努力して参ります。(三上)